（別紙1）　　令和6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0792200065		
法人名	リビングプラットフォームケア		
事業所名	グループホームてんえい1		
所在地	福島県岩瀬郡天栄村大字飯豊字大行45－1		
自己評価作成日	2024/12/1	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和7年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所周辺には田園地帯が広がり、景観を遮るものも無いので遠くの山々まで見晴らすことができ、とてものどかで落ち着いた環境で過ごすことができる。
介護職員はベテランばかりであり、入居者様の行動や体調の小さな変化などにも気づけ、より良い介助の方法について自発的に提案をしてくれる。
また入居者様の健康状態は逐一訪問看護師と担当医に情報共有され、体調の急変時などには医師が24時間対応可能な環境があり、入居者様の健康と安全を第一に運営している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1．利用者の意見や要望を汲み取りながらサービスに反映している。以前の生活と同じように、季節ごとに野菜等を植え、収穫を楽しむ等、畑仕事を行う利用者もおり、利用者の生きがいや楽しみとなっている。また、利用者と家族の意向で、医師・看護師の協力を得て、事業所での看取りが行われている。
2．職員会議や個別面談で出された職員意見を取入れ、業務見直し等を行い、風通しの良い職場環境作りがされている。また、職員の生活状況に合わせて勤務時間を選ぶことができ、働きやすい就業環境となっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念や事業所理念を掲示し、職員に周知している。	事業所の理念は玄関と事務室前に掲示してある。毎朝、朝礼時に唱和しており、職員間で周知されている。職員は理念を理解し、日常業務の中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回、地域のボランティアの方々に、除草作業など行って頂いている。	散歩の際に近隣の方と挨拶を交わし、日常的には地域のボランティアが除草作業等で協力体制がある。また、区長や消防団の方の事業所訪問があり、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応事業所であることは、行政をはじめ地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に発信し理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進委員には事業所の運営状況資料を送付し、意見を返信して頂く形をとっている。ほとんど意見は頂けていないため、現状は活用できていない。	コロナ過以降、感染対策で書面開催となっている。運営推進会議は定期的に開催されており事業所からは、事故・行事・利用者状況等の報告を行っているが、委員からの意見等は聴取されていない。外部評価までの直近1年間で2024年2月は開催していない。	2か月に1回の開催が義務付けられていることから、感染症があった場合でも時期を変更する等、工夫しながら年6回開催して欲しい。また、コロナも感染症5類移行後は、感染症が発生していないときには、委員の方に来ていただき会議を開催し、意見を聴取して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村役場の担当者と、施設の入退居状況について連絡、相談させていただいている。	行政担当者とは、介護保険の認定更新手続きや利用者の入退去・事故・外部評価結果の報告等で連絡をしている。また、担当者との連絡を密にとり、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に開き、職員に研修や周知を行い、拘束を行わないケアを行っている。	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催し、支援内容を振り返り、身体拘束の有無について検証している。また、研修会を通し職員は身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年2回行い、虐待についての知識を持ってもらうよう周知している。	「虐待防止に関する指針」をもとに、年2回委員会を開催するとともに高齢者虐待に関わるWeb研修を受け、虐待への理解・防止に努めている。不適切な対応がないか定期的にチェックリストで振り返っている。	委員会の中でチェックリストを使い振り返る機会があるが、できれば職員一人一人がチェックリストで振り返る機会を作って欲しい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修を行い、職員に学ぶ機会をもってもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、説明し同意を得ている。内容に変更があれば、事前に説明し不明点などないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に入居者の状況を伝え、意見要望を伺い、頂いた意見は事業所会議で話し合い運営に反映させている	利用者の意見や要望は日常の関わりの中からくみ取り、家族からは面会時・電話連絡時等に聞き取っており、それらを事業所で検討し事業運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議時に職員から意見を募り、運営に反映させている	日常業務・スタッフ会議・個別面談等の中で職員の意見や要望を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務について自己評価を行ってもらい把握に努めている。勤務日、時間についてもできる限り職員の希望を取り入れている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員全員に社内研修を受けてもらう体制ができている。	前年度、法人移行があったが、新しい法人のweb職員研修を毎月全職員が受けている。また、職員を採用した際は働きながら技術や知識を身につけられるOJTの仕組みもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者と定期的に会合を行う機会があり、運営について意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては、分からないことばかりで混乱されがちなので、細かい部分まで説明をしながら行動してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	頻繁にご家族へ入居者様の状況を伝え安心して頂き、疑問点などについてお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から不安や要望を聞き、入居してからの支援に活かすため、介護計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃や整頓など、できる限り入居者様にお手伝い頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を把握し、入居後の生活状況を報告しながら、家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などで、ご本人と親しかった方との交流を続けて頂いている。	家族・友人・知人等の面会の際は感染予防に努め、事前に予約をしてもらいながら事務室で対応しており、馴染みの関係の継続を支援している。かかりつけ医等への通院は家族が対応している。家族の協力で、お墓参り・外食・自宅等へ行かれる方もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるかぎり、共用の場で過ごしていただき、他の方と交流が図れるよう務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族の要望についても適宜対応を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや観察でもって、本人の意向の把握に努め、介護計画に反映している。	日常の関わりの中で意向や要望等を把握している。意思表示が難しい方には生活の中での表情・行動・仕草等と家族からの情報を基に利用者本位に思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅ではどう生活されていたか、本人やご家族から聞き取りを行い、介護計画に反映しケアに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態、言動については逐一記録し、職員で共有できる状態にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人とご家族に意向を伺い、会議を行い職員間で話し合い、適宜、介護計画の見直しを行っている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画の支援内容に即したケアを行っている。ケース検討会議では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、職員の介護計画への理解が十分ではない。	モニタリングの際に介護記録を確認し予定通り実施出来たか振り返ったり、計画見直しの時期に関わりを持つ等、職員一人一人が介護計画を理解できるよう工夫して取り組んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌に一人ひとりの日々の変化を記入し、情報共有している。変化があれば、ケース会議にて検討し、介護計画の見直しを図る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・ご家族様の希望に応じて、出来る限りの対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、地域資源は活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医と連携を図り入居者様が安心の得られる受診、治療が受けられるように対応している。診断内容は毎月ご家族様にお伝えしている。	入居時に家族対応を基本とするかかりつけ医か協力医の訪問診療かを選択している。家族対応の外来受診では、日頃の健康状態を口頭もしくはメモで家族を介して主治医に伝達し、結果は家族から報告を受けている。協力医の訪問診療の結果は電話や「病院診断・服薬記録」を送付して家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護を行い、看護師と入居者様の状況について情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の地域連携担当者と情報共有し、変化があれば連絡を頂く体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際、終末期を迎えた際の対応について説明している。終末期を向変えた際は、医師と連携し、ご家族に十分な説明を行っている。	入居時に「重度化した場合の対応指針」に基づき利用者と家族に事業所の対応を説明し同意を得ている。重度化や終末期等状態が変化した場合には主治医の説明後に家族と職員が再度話し合い、意向を確認して看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を定期的に行っており、利用者の急変、事故発生時に対応出来るように備えている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP策定し、職員に周知するとともに、火災や地震に対しての訓練及び研修を定期的に行っている。	総合訓練を実施し、消火器・通報機器等の定期点検を行っている。また、BCPについての動画研修を受講し、理解を深めており、飲料水・缶詰・米・カレー等の備蓄品の他カセットコンロ・紙皿等が備蓄されており消費期限を確認している。	年1回は総合訓練に消防署の立会を依頼して欲しい。また、職員が昼夜を問わず利用者を避難させられるよう夜間想定訓練を多く実施して欲しい。さらには、町内会や地元消防団に訓練への参加を要請する等、地域との協力体制の構築が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時など、入居者様が気にされない様な対応を心がけている。声掛けも強い口調にならない様にお一人お一人に合った対応を心がけている	居室に入るときのノックやトイレ誘導時の言葉かけ等、プライバシーに配慮した基本的なケアの徹底に努めている。また、普段の声掛けも命令口調にならないように配慮している。個別ファイルは鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまずは入居者様の思いを伺い、それに沿った対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位なケアにならないよう心がけているが、入居者様のペースに合わせては間に合わない場合など、職員の都合で動いてしまっている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容のための道具はご本人の要望通りに用意している。ご本人で着る服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	感染対策で、職員が一緒に食事を摂ることはできていないが、食材の準備や配膳など入居者様に手伝って頂いている。	チルド食を基本としつつ、ご飯や味噌汁は手作りしている。事業所で採れた野菜や家族等から差し入れされた旬の野菜を味噌汁の具材やおかずを増やすなどしている。また、おはぎ・海苔巻き・ホットケーキ等を利用者と一緒に手作りし、ちらし寿司・ラーメン等のお楽しみメニューを提供して食事を楽しめる様工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量を記録し、またスタッフ会議等で食事形態、提供方法を定期的に見直している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、個人に合わせた対応で口腔ケアを行っている。ご自身で出来る方は自分の力で、出来ない方は職員が支援をして清潔の保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行く能力がある限りは、オムツに頼らず、トイレにご案内し排泄介助を行っている。	トイレでの排泄を目標に支援している。排泄記録を基に排泄パターンを把握し、利用者の様子・表情を見ながらトイレに誘導している。丁寧な排泄支援を行うことにより、オムツからリハパンに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などにより体を動かす機会づくり、好みの飲料水等を提供し水分摂取出来る様な支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、ご本人の入りたいタイミングで入って頂いているが、職員の都合で決めてしまう場合もある	週2～3回午前中の入浴を基本としつつ、希望する場合は回数を増やす等柔軟に対応している。スライド式浴槽であることから踏み台等を活用できる限り浴槽に入れる様に支援している。入浴を拒む利用者には声掛けを工夫しながら対応している。足湯に柚子湯を取り入れるなど入浴を楽しめる様工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、加湿など、安心して休んで頂けるよう環境を整えている。入居者様の好きな時にベッドやソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があった時は、特に用法と副作用を確認し、服用後の変化について注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様のお好きなことや得意なことを把握し、気分転換などの支援を行っている。軽作業や散歩などに参加していただける環境づくりをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りご家族と連携を図り外出して頂く機会を設けている。日常的には天気のいい日に施設周辺で外気浴を行っている。	通院に合わせ家族と一緒の外食や墓参り、親戚の集い等に外出している。天気の良い日には事業所周辺を散歩して外気浴を楽しんでいる。これまで感染症対策のため事業所で企画した外出は出来なかったが、今年は近隣の観桜等を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っており、要望に応じて、職員が購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様、ご家族様が連絡を取りたい時は電話をして頂けるような環境づくりをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度など、快適に感じられるよう気を配っている。季節を感じられる装飾品を設置するなどしている。	定期的な換気や温度・湿度の管理を職員が行い、清掃も職員が行っているが一緒にモップ掛けを行う利用者もいる。季節が感じられる団子刺し・雛人形・桜・鯉のぼり等の他に鉢植えやぬいぐるみ等が飾られ、壁面には利用者の作品である塗り絵・貼り絵・折り鶴・スクラッチアート等が飾られ居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を把握し、テーブル席などに配慮している。また、自由に移動してお好きなように過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人様が家で使っておられた物や、家族の写真など居室に置いていただき、安心できる環境を作るように工夫している。	入居時に家族と相談の上居室のレイアウトを決め、寝具・衣装ケース・テレビ・ラジオ・書籍・遺影・鉢植え等を持ち込み、家族の写真や作品を飾る等、その人らしい居室となっている。利用者が自分の洗濯物を居室内に干し、たたむなど一人ひとりの力を活かすことが出来る様工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを把握し、行動される際は見守りを行いつつできることをやっていただき、安全に自立した生活ができるよう努めている。		